

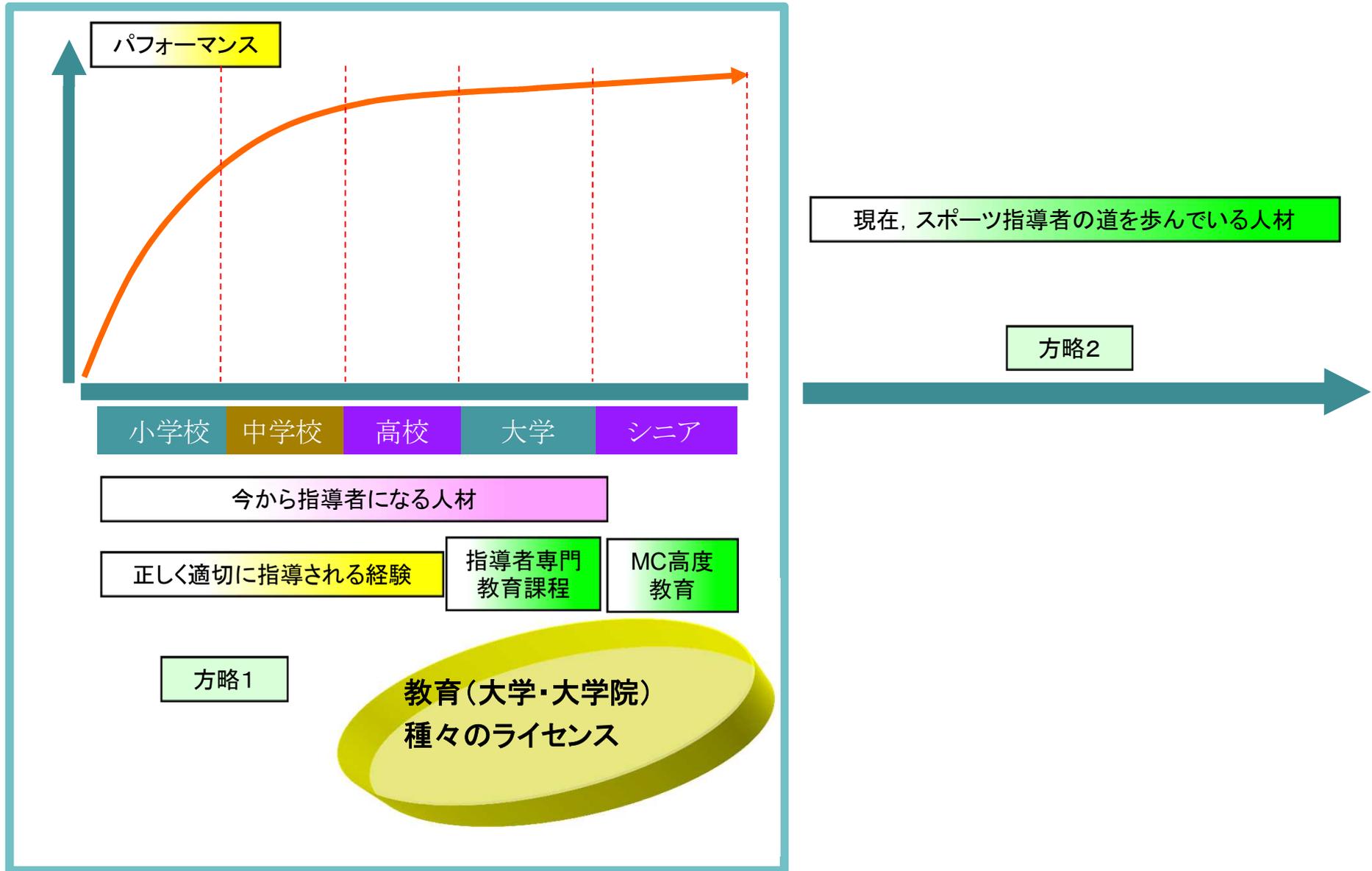
スポーツ指導者の資質能力向上の ための有識者会議(タスクフォース)

日本スポーツ界から体罰(暴力)を根絶 するための方略



筑波大学体育系 関子浩二

体罰(暴力)の根絶／2つの方向性



スポーツ指導者の道歩んでいる人材

方略2

対症療法的手段

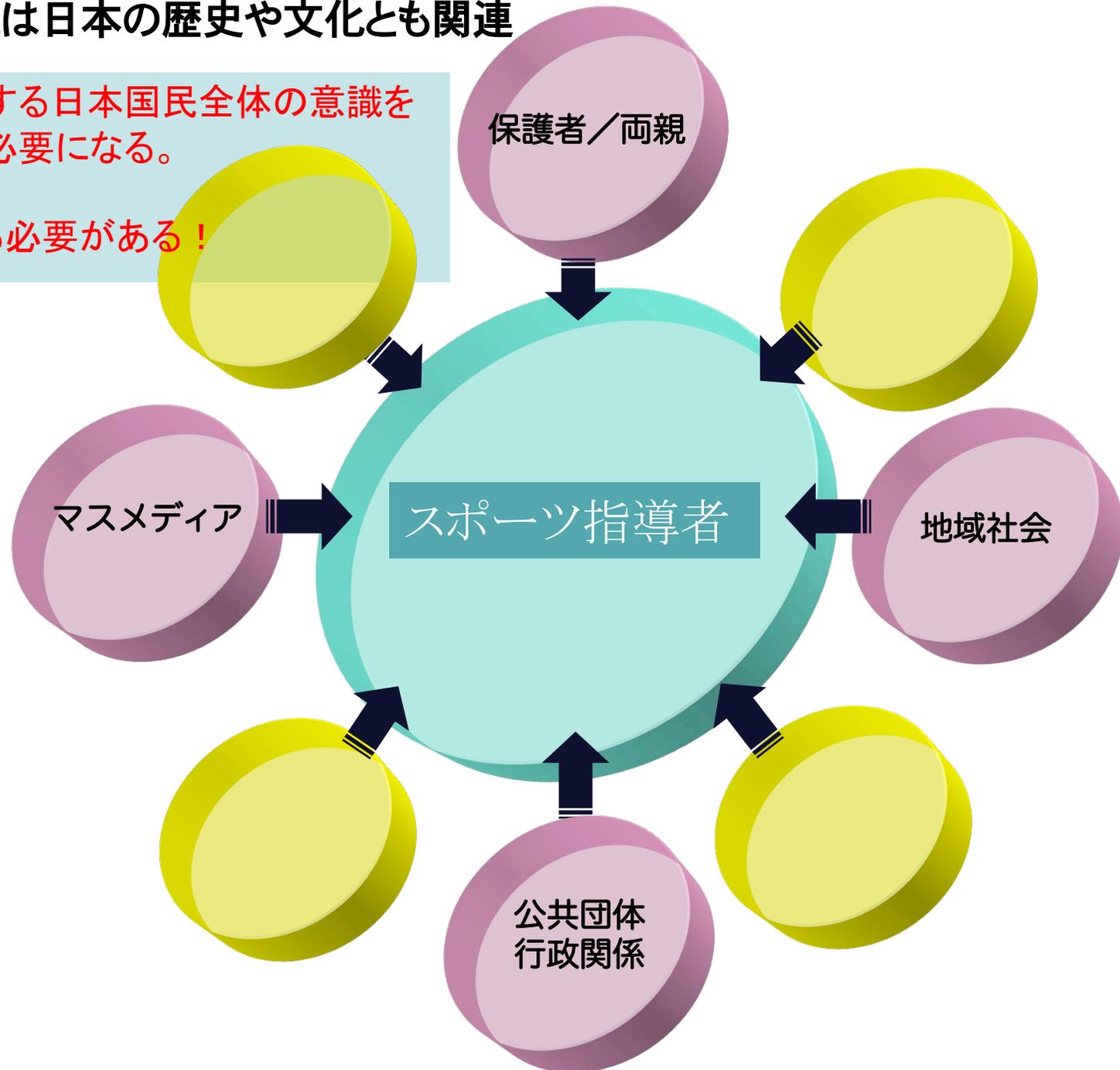
- 監視システム／調査システム
規制・・・そして罰則取り締まり
 - 選手を守り, 保護するシステム
訴えることのできる場所の設定
カウンセリング
- 学校・教育委員会・NFなどの組織

- 再教育システムの確立
体罰(暴力)に関する教育普及活動
- DVDの作成
- 政府広告などの提示

体罰(暴力)容認は日本の歴史や文化とも関連

体罰(暴力)に対する日本国民全体の意識を変えていく必要がある。

その方略を考える必要がある！



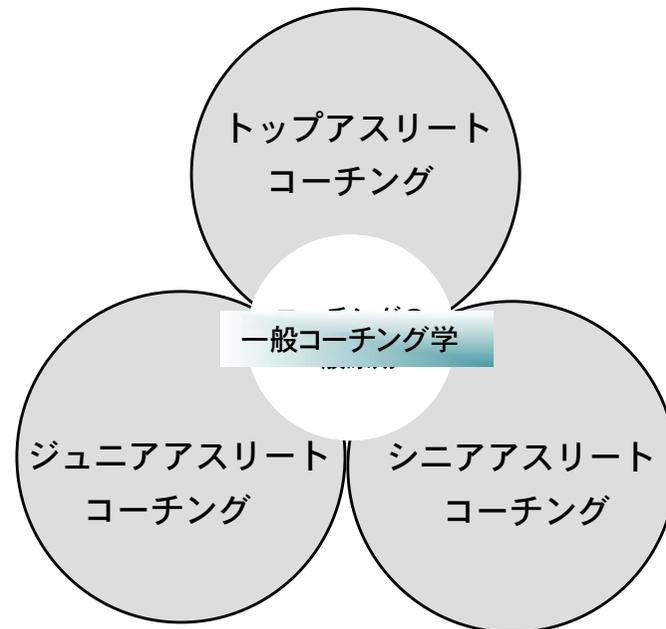
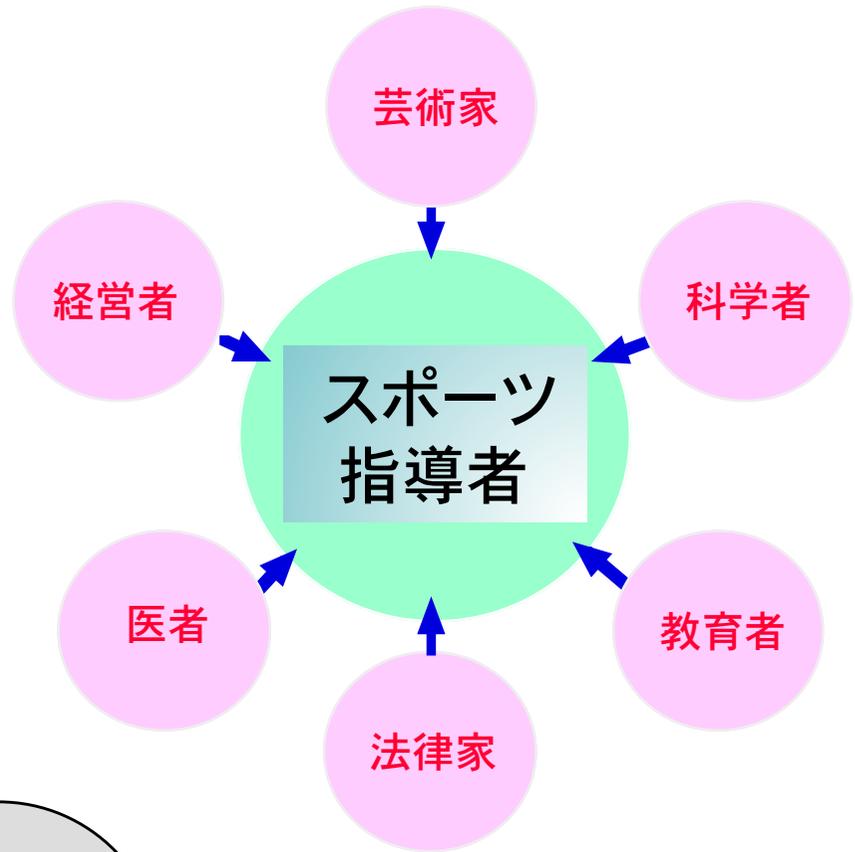
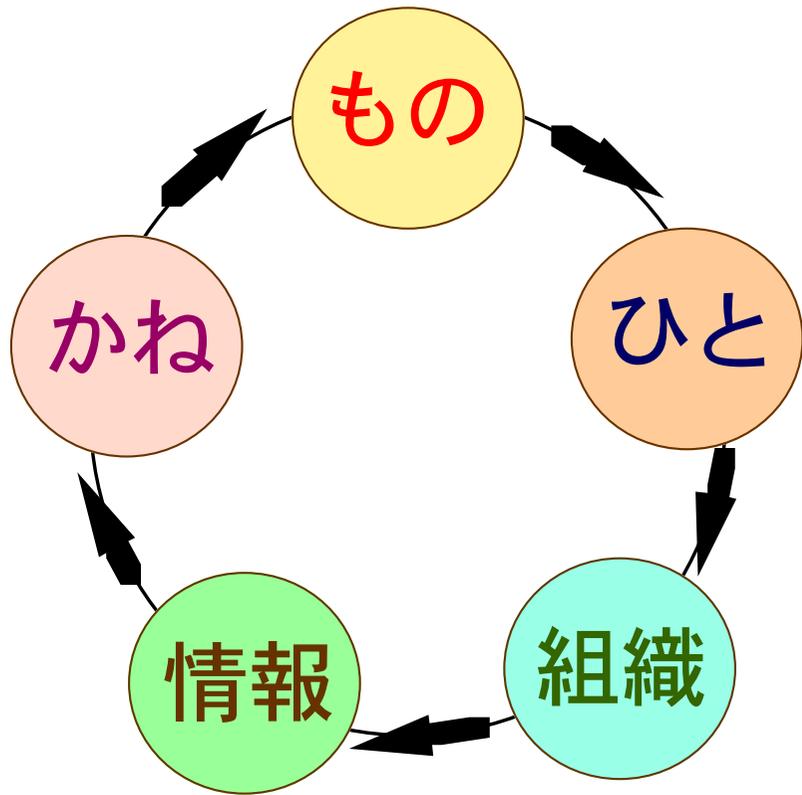
第一の方略について

スポーツ指導者に求められる資質能力

スポーツ指導者は何を行っているのか？
あるいは行うべきであるのか？

コーチが行っている仕事,
行動, 思考を体系化する!





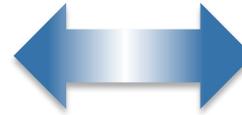
全人的なコーチング行動 (Athlete First – Double Goal Coach)

指導行動(指示し導く行動)

- ・専門種目の知識, 経験, スキル
- ・トレーニングの知識, 経験, スキル
- ・スポーツ科学に関する知識
- ・問題解決型思考およびスキル

育成行動(育み育てる行動)

- ・心理学的な知識, 経験, スキル
- ・コミュニケーションの知識, 経験, スキル
- ・カウンセリングの知識, 経験, スキル
- ・教育学的な知識, 経験, スキル
- ・感情コントロールの知識, 経験, スキル



高度な専門性が要求される

事故防止・安全対策行動

体とこころ

- ・スポーツ医学の知識, 経験, スキル
- ・臨床心理学的な知識, 経験, スキル
- ・救命救急に関する知識, 経験, スキル

プロフェッショナルな
専門職業人

マネジメント行動

- ・人的配置・組織の知識, 経験, スキル
- ・経営学的知識, 経験, スキル
- ・情報学的な知識, 経験, スキル
- ・施設管理の知識, 経験, スキル

国際性に対応できる行動

- ・語学の知識, 経験, スキル
- ・他文化理解の知識, 経験, スキル
- ・日本文化への深い理解

スポーツ指導者

選手のパフォーマンス向上を目的とするが、その方略には2つの側面が存在している

CRAFTSMAN

職人

技能(SKILL)ではなく、
技(CRAFT)または芸(ART)である

まねび 模倣・伝承

- 徒弟制度
- 型の形成
- 教えることを最小限にした方法、一つ一つを体系的には学ばない。経験則、勘、コツの体得を目指す。

スポーツ指導者

高度な専門性が要求されるが、
ライセンスをどう担保するか？

プロフェッショナルな
専門職業人

PROFESSIONAL

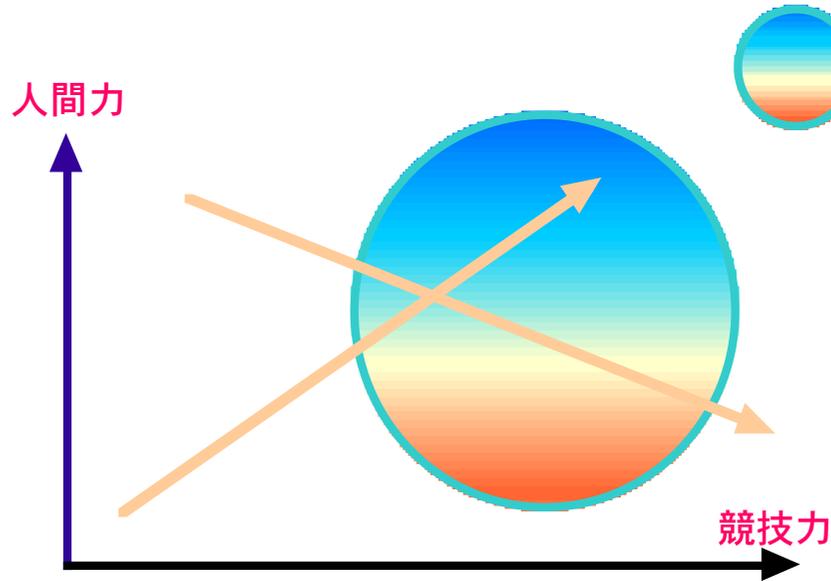
専門職

技能(SKILL), 問題解決型の
思考および行動スキルである

学ぶ 学習・指導

- 教育制度の中
- 体系的な手順に則って、理解を促す
- 実践的な見識と最新知識、深淵な思考と省察、創造的思考の循環を目指す。

一部のトップアスリート



人間力と競技力は必ずしも一致しない。
勝利至上主義の問題点

- ・ドーピング
- ・早期専門化
- ・バーンアウト
- ・バーバリアンアスリートの存在
- ・バーバリアンコーチの存在

選手とチーム優先・主体 (Athletes First)

人間力

育成行動 (育み育てる行動)

- ・心理学的な知識, 経験, スキル
- ・コミュニケーションの知識, 経験, スキル
- ・カウンセリングの知識, 経験, スキル
- ・教育的な知識, 経験, スキル
- ・感情コントロールの知識, 経験, スキル

2つの目的を達成するコーチング行動 (Double Goal)
勝利 + 人間力 (スポーツを通して幸福に生きる能力)

競技力

指導行動 (指示し導く行動)

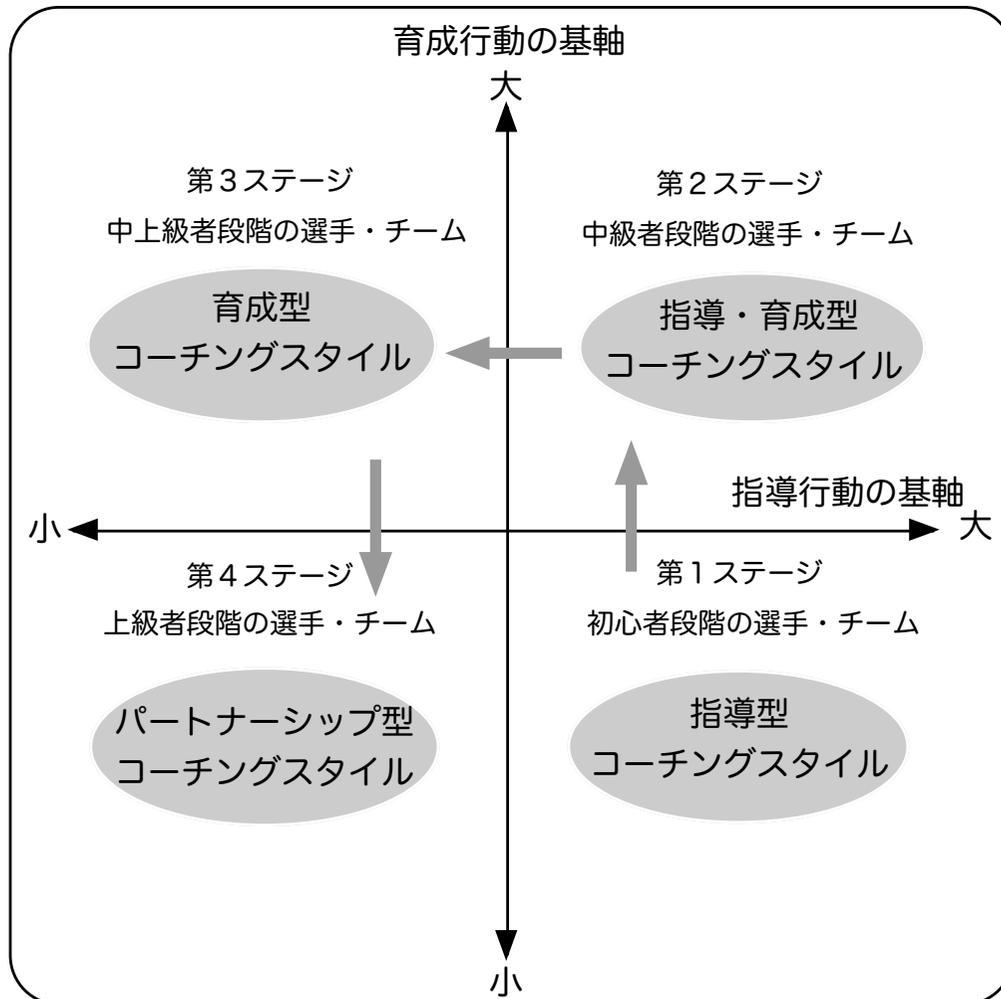
- ・専門種目の知識, 経験, スキル
- ・トレーニングの知識, 経験, スキル
- ・スポーツ科学に関する知識
- ・問題解決型思考およびスキル

人間力

育成行動(育み育てる行動)

- ・心理学的な知識, 経験, スキル
- ・コミュニケーションの知識, 経験, スキル
- ・カウンセリングの知識, 経験, スキル
- ・教育的な知識, 経験, スキル
- ・感情コントロールの知識, 経験, スキル

【PM理論】PM理論とは、リーダーシップについての代表的な理論のひとつであり、社会心理学者である三隅二不二(みすみじゅうじ)氏によって1966年に提唱された理論です。リーダーが集団に働きかける機能には一般に、P機能(Performance function:目標達成機能)とM機能(Maintenance function:集団維持機能)という2つの大きな機能があります。



・選手とチーム優先・主体 (Athletes First)

・2つの目的を達成する指導 (Double Goal)

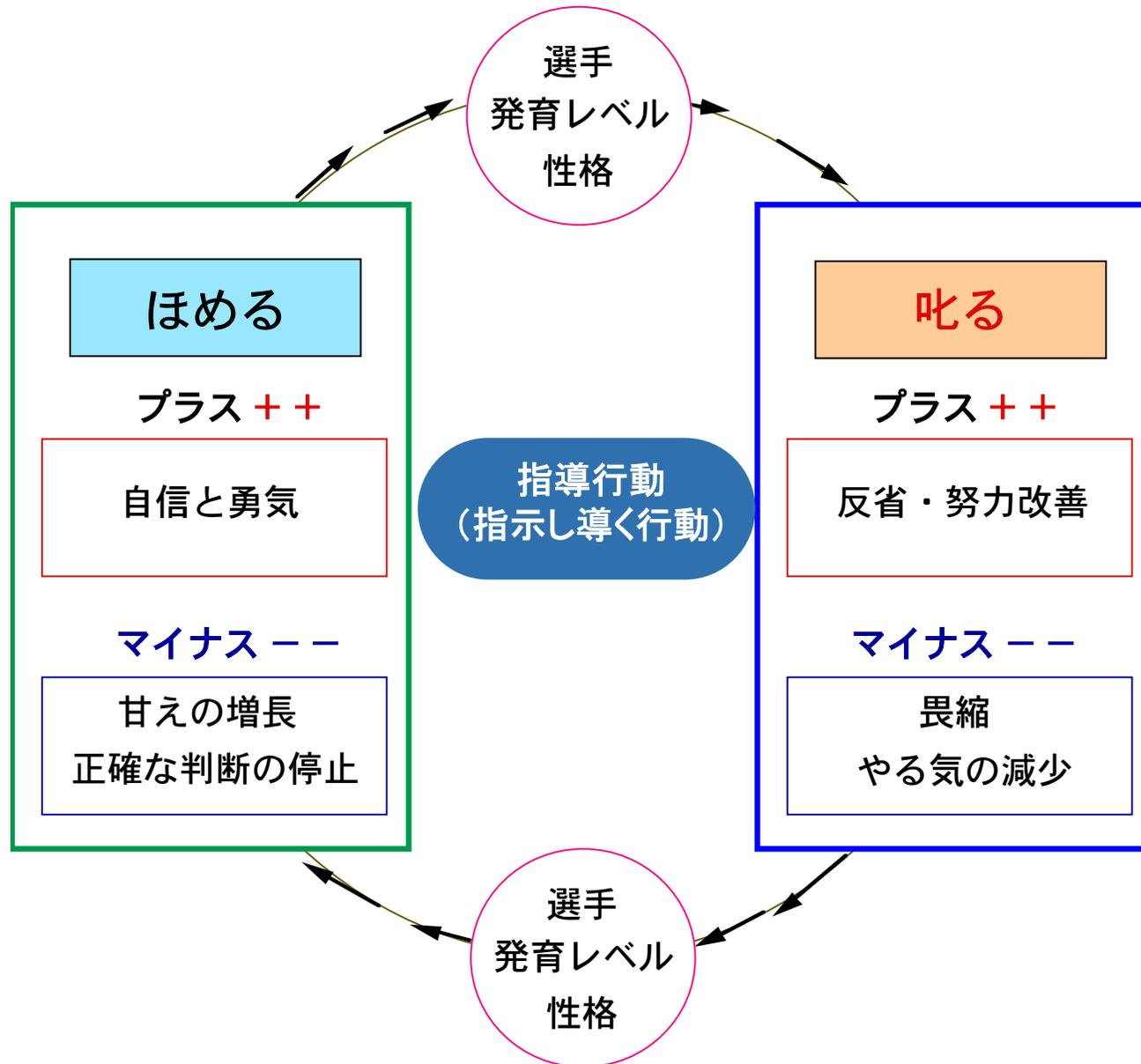
勝利+人間力 (スポーツを通して幸福に生きる能力)

競技力

指導行動(指示し導く行動)

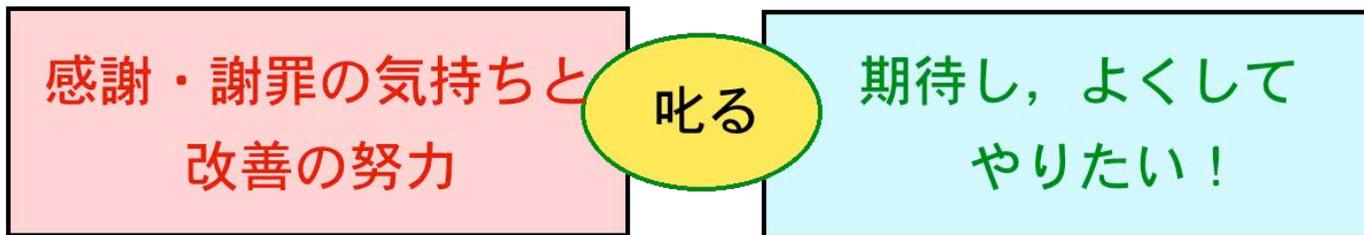
- ・専門種目の知識, 経験, スキル
- ・トレーニングの知識, 経験, スキル
- ・スポーツ科学に関する知識
- ・問題解決型思考およびスキル

図1 選手とチームを主体にした可変型コーチングスタイルのモデル



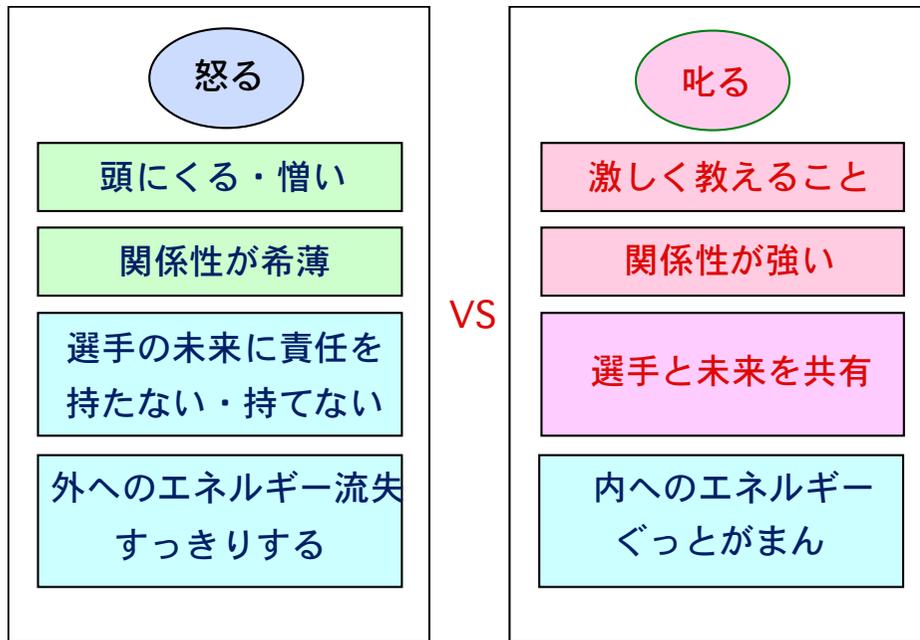
叱る目的

選手に考えさせて、期待する方向への変化を促すこと
(目標に対するエラーの修正)



心から叱ることは、ほめることよりも大きな
エネルギーを使う

叱る際の注意事項 1



- ・選手だけが悪いのではなく、総責任は自分にある
ということを忘れないこと
(私も指導不足だった・・・自己反省)
- ・選手が反省し、改善努力するようになり、信頼感も高まるようにする
(考えさせて、期待する方向へと導く)
- ・謙虚な気持ちで叱り、激励を忘れないこと

- ・全人格的に叱ったりしない(どうしようもないやつだ・・・！)
(逆効果・憎しみの発生)
- ・他人と比較して叱らない
- ・事実を明らかにし、選手の言い分も聞き、理由を説明して叱る
(言い分も聞かず、一方的にガミガミ言いやがって・・・)
- ・叱るべきときはしっかりと叱る
(本当はしかるべきところだが・・・は冷たい仕打ち)
- ・逃げ道を作り、とどめを刺さない
- ・過去にさかのぼって叱らない

